

学童クラブ待機児童対策に係る方向性について

1 現状と課題

区は、保護者が就労等で放課後に適切な保護を受けられない子どもが安全・安心に過ごせるよう見守り、遊びや活動などを通じてすこやかに成長できるよう援助することを目的に学童クラブ事業を実施している。

これまで、キッズ・プラザの整備に合わせて小学校内に区立学童クラブを設置するとともに、利用希望の多い地域などにおいて民間学童クラブの誘致等を行い、定員の拡充を図ってきた。一方で、女性の就業率の上昇などによる共働き世帯の増加に伴い、学童クラブの入所申込数は年々増加傾向にあることから、区内の一部地域で待機児童が発生しているところである。

このため、学童クラブの待機児童の解消を図り、誰もが安心して働ける環境づくりを進めていくことが求められている。

【参考】区内学童クラブの定員、申込数及び待機児童数の推移 (単位:人)

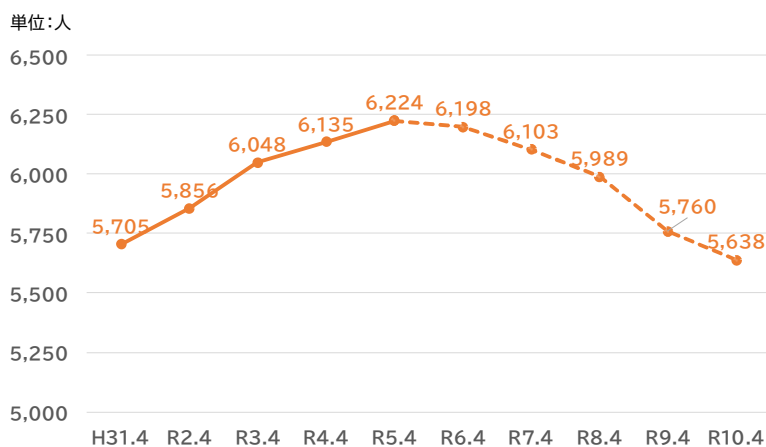
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
定員	2,061	2,146	2,310	2,375	2,388
申込数	1,991	2,149	2,178	2,326	2,366
待機児童数	106	122	49	68	83

2 今後の需要見込み

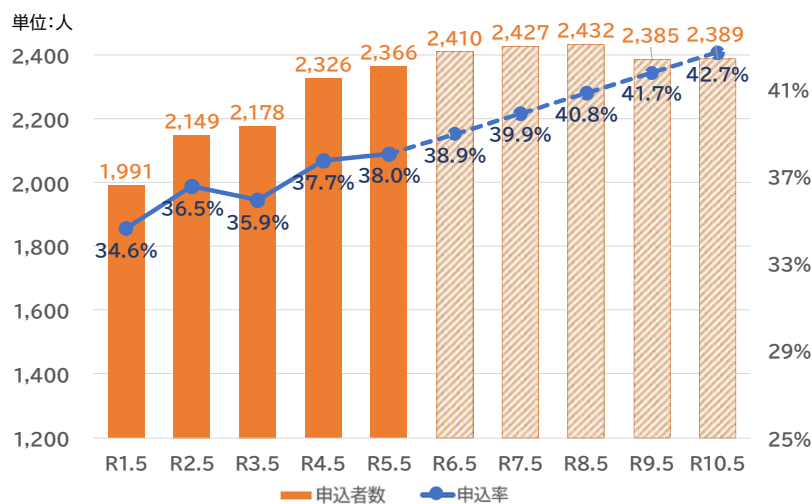
学童クラブ利用の大部分を占める6～8歳(小学校1～3年生)の人口について、過去5年間の実績において増加傾向であったが、今後は、出生数の減少などに伴い減少傾向となることが予測される。一方で、学童クラブの需要率について、過去5年間の実績において増加傾向であり、昨今の女性の就業率の上昇等を踏まえると、今後も同様の傾向が続くものと予測される。

これらを踏まえると、今後の学童クラブの需要見込みについては、令和6～8年度がピークとなり、その後は、年少人口の減少に伴い、緩やかに減少していく傾向にあると予測される。

【参考】将来人口推計(6～8歳)《総務課推計》



【参考】学童申込者数・申込率将来推計



3 対策の方向性

今後の需要見込みを踏まえ、キッズ・プラザ整備に合わせた区立学童クラブの設置などを着実に進めるとともに、令和6～8年度の需要見込みのピークに対応できるよう、暫定的な定員拡充を実施していく。

また、区立学童クラブ以外の放課後の居場所の充実や周知広報の強化に取り組んでいく。

4 今後のスケジュール(予定)

令和5年10月 学童クラブ待機児童対策に係る考え方の取りまとめ